

令和2年5月20日

住宅・住戸の外皮性能の計算プログラム 修正点 (Ver.2.1.2 → Ver.2.8.0)

以下の更新を行いました。

<住宅・住戸の外皮性能の計算プログラム Web 画面>

1. 計算結果画面の外皮基準判定欄において、基準値の等級（等級2、等級3、等級4、ZEH、ZEH+）を表示するように変更しました。
2. 計算結果画面の外皮基準判定欄において、暖房期の日射熱取得率を表示するように修正しました。
3. 計算詳細画面の貫流熱損失計算（簡略計算方法1）の欄において、部分の種類が正しく出力されない問題を修正しました。

<住宅・住戸の外皮性能計算条件入力シート>

4. 平均熱貫流率の算出において、外皮の内側にある空気層の種類と熱抵抗値を、面材で密閉された空気層 $0.09 \text{ m}^2\text{K/W}$ 、他の空間と連通していない空気層 $0 \text{ m}^2\text{K/W}$ 、他の空間と連通している空気層 $0 \text{ m}^2\text{K/W}$ へ修正しました。これに伴い、入力シートにおける空気層の名称と参照値も変更しました。
5. 窓の垂直面日射熱取得率の計算において、ガラスの垂直面日射熱取得率 η_d を算出する際に、建具の影響を考慮するように修正しました。これに伴い、窓の熱損失量等の計算入力シートにおいて、枠の影響の有無を選択できるようになりました。
6. 基礎等の外周部の線熱貫流率を算出する入力シートにおいて、線熱貫流率を 1.8 W/m K と指定できるように修正しました。
7. 開口部が風除室に面する場合の開口部の熱貫流率の計算において、風除室が付与された窓又はドアの熱貫流率と風除室が付与されていない窓又はドアの熱貫流率とで按分する計算方法から、風除室が付与された窓又はドアの熱貫流率だけで評価するように修正しました。この変更に伴う入力シートの変更はありません。
8. 一般部位の断面構成が同一である部分の熱貫流率を計算する際に、木造における外張断熱又は付加断熱の場合において、下地材などにより、断熱材を貫通する熱橋部を有する場合は、外張断熱又は付加断熱の断熱材の熱抵抗に低減率を乗じて計算する方法を、簡略計算方法①だけでなく、詳細計算方法および簡略計算方法②も選択できるように修正しました。

以上